

平成 29 年度～令和元年度労災疾病臨床研究事業

## 医療機関における両立支援の取り組みに関する研究

研究代表者：中村 俊介 独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災病院 救急科

【研究目的】治療と仕事の両立支援は疾病の治療を受ける勤労者が憂いなく就労することができるための職業生活を支援する病院機能の一つである。本研究は、労働者・患者、医療機関、事業者等のニーズを調査、分析し、医療機関における両立支援の実践の場面で用いるコンサルティングツールを開発することを研究の基幹とし、その手法を確立する過程で医学部附属病院や疾患別拠点病院、労災病院に応用展開し、両立支援を実践する医療機関の裾野を広げることを目的として進めた。

【研究方法】平成 29 年から令和元年度にかけて、以下の項目について調査、研究を進めた。

### 1. コンサルティングツール開発

- (1) 両立支援が機能している医療機関、治療と就労の両立の経験がある労働者、事業所における人事担当者、産業保健スタッフなどを対象としたマーケティング調査
- (2) がん患者の治療と就労の両立に関する電話相談を受けている電話相談員に対する調査
- (3) がん診療連携拠点病院、労災病院を対象とした両立支援体制の整備、課題に関する調査
- (4) 「医療機関における治療と仕事の両立支援導入ガイド（素案）」および「乳がん・大腸がんを対象にした配慮事項一覧」を用いたモデル事業およびアンケート、ヒアリング調査
- (5) 先進的に両立支援に取り組む医療機関を対象とした好事例のヒアリング調査
- (6) 疾患を発症した際に就労していた経験のある労働者・患者を対象とする患者ニーズ調査

### 2. 医学部モデルの構築

- (1) 産業医科大学病院
  - ・診療各科および各部門における両立支援の調査
  - ・両立支援科、就学・就労支援センターの診療状況調査
- (2) 東京慈恵会医科大学附属病院
  - ・各診療科および企業を対象としてヒアリング調査

### 3. 疾患別拠点病院におけるモデルの構築

- (1) 肝疾患診療連携拠点病院における肝疾患患者の両立支援ニーズについての調査

- (2) 肝疾患患者への啓発資材の効果検証
- (3) 肝疾患連携拠点病院における職業調査
- (4) 肝疾患連携拠点病院と産業保健総合支援センター、労災病院、社会保険労務士との連携に関する調査
- (5) 肝疾患連携拠点病院における両立支援に対する進行状況の調査
- (6) 肝疾患患者における両立支援の認知度、治療の社会的バリア等の調査
- (7) 肝疾患連携拠点病院における両立支援の進行状況に関する調査

#### 4. 人材育成についての検討

- ・両立支援のための人材育成を目的とするマニュアルの調査
5. 大学病院における両立支援チラシ配布による効果の調査、検証

【研究成果】上記の調査、研究結果をもとに検討を行い、以下の成果物を作成した。

1. 医療機関における治療と仕事の両立支援導入ガイド
2. 乳がん・大腸がんを対象にした配慮事項一覧
3. 医療機関で用いる患者向けチラシ
4. 医療従事者向け啓発資材

【結 論】医療機関における両立支援を円滑に導入し、効果的に展開するためにマーケティング手法を用いた調査を行い、両立支援の成功事例となるポイント、障壁となるポイントを抽出、仮説を構築し、支援ツールとして「医療機関における治療と仕事の両立支援導入ガイド」ならびに乳がん・大腸がんを対象にした配慮事項一覧、患者向けチラシ、医療従事者向けの両立支援紹介資料を作成した。

医療機関において両立支援を効果的に実践するためには、関係者がチームとして連携、協働する体制を構築することが重要となる。本研究で得られた知見、作成した支援ツールが活用されることが望まれる。